

奥多摩の教育

第214号
発行
奥多摩町教育委員会

平成30年12月1日現在
児童数 145名
生徒数 75名
教職員数 48名

小中学校で芸術鑑賞 教室がおこなわれました

小学校

10月9日古里小学校の体育館に、古里小・氷川小の児童、古里保育園・氷川保育園の園児が集まりました。今年度の鑑賞教室は、伝統芸能一座『わざをぎ』の皆さんによる〈歌舞伎芸能〉の公演を行いました。『わざをぎ』は、多くの人が伝統文化に触れ、後継者となることを願って活動している一座です。当日は、三味線・笛・囃子・唄の演奏に加え、舞踊家の演技があり、歌舞伎芸能の世界を体感することができました。

児童の書いたお手紙の一部です。
「ぼくは、おはやしをやっている、しのぶえをつかっています。あの大きいふくろに、いっぱいふえが入っていて小さいのと大きいのがあったので、びっくりしました。」
「三味線の音が、はく力があってとてもいい音色でした。これから、しの笛をおうちでやります。その時



は、『わざをぎ』のみなさまを思い出しながら、えんそうしたいです。」
「たいこみたいなのを、たたくときに『タ』『ボン』『ス』を使って楽器をひいていたので、3つだけで覚えるなんてすごいなと思いました。私も大人になったら演奏したいです。」
「私が面白いと思った所は、最後に一緒に音楽を演奏したことです。演奏を聴いて、好きな楽器がわかりました。それは、つづみです。」
「ぼくがやっている囃子とは、使う物やバチが違いました。ぼくは、和楽器を調べたのでよくわかりました。着物などもカッコよかったです。」

また今度見たいと思いました。」
「今日たくさんの楽器の音をきいておどろきました。なぜかというテレビなどで聴いた事のある音を間近で聴けたからです。ぼくはやってみたいと思いました。日本の伝統音楽だからこれからも守りたいです。」

奥多摩では、各地域のお祭りで獅子舞やお囃子の演奏があります。笛や太鼓の音を聴き、心が動く子どもたち。つづみの体験では、音と心を合わせようとする子どもたちの姿がみられました。芸術家の奏でた、本物の音色の迫力に圧倒され、舞踊家の美しい踊りに魅了された時間でした。

中学校

本年度の芸術鑑賞教室が、10月11日に行われました。今年は劇団「シアター・ジャパン」によるミュージカルを鑑賞しました。

ミュージカルの演目はシェークスピア原作の『真夏の夜の夢』です。原作者のシェークスピアは16〜17世紀のイギリス・ルネサンス演劇を代表する人物で、『ハムレット』、『マクベス』、『オセロ』、『リア王』の4大悲劇が有名な劇作家ですが、たくさんさんの喜劇も書いています。
ルネサンス演劇という堅苦しいような先入観を持ってしまいましたが、今回は喜劇であり、また、ミュージカルにしてあるので、楽しい舞台

が期待されました。
会場の体育館に入ってみると、慣れた体育館のステージがギリシャのアテネ近郊の森に変わっていました。劇が始まってみると、単なるストーリーの面白さだけではなく、歌と踊りも存分に楽しむことができました。

なかなか本格的な舞台を楽しむチャンスが少くない中学生にとつて、このような形で芸術作品に触れることができるとは、貴重な体験だと思います。



小学校の交流学習

(1) 1・2年生「合同体育」

10月9日の芸術鑑賞教室の前に、1・2年合同体育(マット運動)を行いました。奥多摩中学校の体育の山下先生を講師にお招きし、授業を行いました。体育専科の先生の指導方法に学ぶことが多く、一緒に学習する大切さを実感した時間でした。



(2) 3年生「山のふるさと村」

10月16日、山のふるさと村交流学習を行いました。4月から2校の交流学習を進めてきましたが、校外で行動を共にするのは初めてでした。山のふるさと村では、最初に奥多摩の自然についてインタープリターから説明がありました。その後、自然

散策をしながら、班行動でオリエンテーリング。お弁当を食べてから一緒に遊ぶ時間もありませんでした。しっかりと奥多摩の自然を体験し、一緒に十分楽しめました。



(3) 4年生「都内移動教室」

10月18・19日で、都内移動教室が行われました。4年生の宿泊学習は昨年度から合同で行われ、今年が2回目になります。昨年同様、大田清掃工場やお台場海浜公園、上野国立博物館、浅草寺などを見学し、今年度は、東京タワーや江戸切子体験も行いました。

今まで何回も交流学習を行い、すでに仲間同士の4年生。班行動を実

施し、皆で協力し、自覚を持ちながら行動することを学びました。一方、小学校に入って初めての宿泊だったために、宿舎での過ごし方や食事、慣れない班行動などで戸惑う場面もあったようです。来年、再来年と一緒に宿泊に出掛けます。今後にも共に多くのことを学んでいきたいと思えます。

東京タワーの中で



(4) 5年生「大島移動教室」

5年生の「大島移動教室」が、7月12〜14日に行われました。昨年度まで氷川小単独で実施していた活動を2校の交流学習として行うことになり、2校の校長も参加して実地踏査を行いよりよい移動計画に向けた準備を進めてきました。

当日は、神奈川県立生命の星地球博物館の見学をした後、熱海港から

大島に向かいました。2日目、町の製塩工場を見学し、昼からスキングイビングの体験。美しい海の魚を見ることができました。3日目はいよいよ三原山登山がありました。帰校した子どもたちは、日焼けして少し大人になって帰ってきました。来年は、一緒に日光に行きます。

大島三原山をバックに



(5) 6年生「日光移動教室」

7月30日〜8月1日「日光移動教室」が行われました。6年生の移動教室も今年度初めて2校一緒の実施となりました。

日光の豊かな自然と歴史や文化を味わうことを目標に27名の児童が参加しました。氷川小では初めての日光ということ、昨年度まで古里

小で実施してきた行程をもとに、2校の担任が協議して計画を作り上げました。

日光では、華嚴の滝、戦場ヶ原ハイキング、源泉見学、竜頭の滝、中禅寺湖機船乗船、三本松見学、足湯体験、日光彫体験、日光東照宮見学と盛りだくさんの内容でした。ハイキングや見学は班行動でしたので、自然と仲間づくりや協力関係を築くことができました。天候にも恵まれ、小学校の良き思い出として心の中に残ることと思います。



(6) 井之頭小との交流

10月10日〜12日、武蔵野市立井之頭小学校の4年生83名がプレセカンドスクールとして奥多摩を訪れました。その1日目に古里小・氷川小を

訪問し、交流学习が行われました。お互いの地域や学校の紹介・スポーツ交流等があり、給食も一緒に食べました。初めて会ったとは思えないほど、打ち解けて会話を交わす姿が見られ、とても楽しい時間を過ごすことができました。



氷川小の給食交流

古里小で記念撮影



奥多摩中学校

修学旅行

3学年では、9月29日から2泊3日で修学旅行を行いました。滞りなく出発し、東京駅で駅弁を購入し、新幹線へ。初めての生徒もいたように、写真を撮ったり、窓から風景を眺めたりしていました。

初日は奈良へ向かいました。法隆寺を見て回り、日本最古の木造建築や国宝を肌で感じてきました。その後は奈良公園へ移動し、阿修羅像や東大寺の大仏を拝観してきました。

2日目は、朝のうちに台風による暴風警報の発表があり、予定が大きく変更となりました。影響の少ない午前中のみ、クラス全員で清水寺と三十三間堂に向かいました。清水寺近辺での散策中の楽しそうな様子や、三十三間堂の約千体の観音像に圧倒された生徒たちの表情が忘れら



れません。昼頃に宿に戻り、女将さんが手配してくれたお好み焼きを食べ、午後はゆつくりと自由時間を交えながらレクリエーションを楽しみました。

3日目は、タクシーで班活動をしました。前日とは一変し、晴天に恵まれました。伏見稲荷大社や金閣寺を回ったり、関西風のうどんや抹茶スイーツを食べたりして、目でも口でも京都を堪能してきました。

京都・奈良で歴史を肌で感じ、寺社仏閣の美しさに圧倒され、宿の女将さんに挨拶の大切さを教えていただき、クラスの絆を深めることのできた2泊3日となりました。



音楽祭

「羽ばたく音色 大空へ」とのソローガンのとおり、奥中生の歌声が会場の体育館を越え、どこまでも澄んだ秋の空へ響き渡りました。

4回目となる奥多摩中学校音楽祭は、生徒の主体性を発揮した練習や準備から、奥中の伝統として確かなものとなった感があります。今年の実行委員の発案により、学年を越えた練習にも取り組むなど、伝統をさらに発展させてくれました。

1年生は、男子の多くが変声期の渦中にある中、それぞれの声の良さを生かし合い、1年生らしい伸びやかな歌声を聞かせてくれました。2年生は、女子の人数が少ない中、男声パートを2部に分けた混声三部合唱に挑戦。本番直前まで練習を重ね、見事なハーモニーを響かせてくれました。そして3年生。合唱、指揮、伴奏の全てが難曲中の難曲。1学期の練習から、一つひとつの音、言葉と真剣に向き合い、さすが3年生と言える感動的な合唱を完成させてくれました。和楽器との合唱奏では、それぞれの学年の良さがひとつとなつて、力強い和太鼓、繊細な箏の音色とともに、豊かな音楽で会場が満たされました。

音楽祭をおして、生徒たちは多くのことを学んでいきました。仲間



と協力し合うことの大切さ。仲間がいるからこそ乗り越えられることがあること。努力を重ねれば確実に進歩すること。

そしてその先に辿り着く場所が必ずあること。

そうした、日々努力し、時に悩み迷いながらも、より良きものを目指して成長していく、すばらしき生徒たちとの触れ合いの中で生まれた、奥中のオリジナル合唱曲「飛翔く約束の空へ」。完成までにいつも以上に時間がかかりましたが、できあがった曲を生徒たちは短い練習時間だったにもかかわらず、本番では力強く堂々と歌いきってくれました。それはまさに、未来の空へ飛翔する若鳥のように、頼もしくもありました。音楽祭の成功のために支えてくださった全ての皆様に感謝いたします。ありがとうございます。

平成31年度に使用する町立小・中学校の教科用図書

平成31年度に町立小学校で使用する教科用図書、並びに町立中学校で使用する「特別の教科 道徳（道徳科）」の教科用図書について、教育委員会（定例会）で採択が行われました。なお、小学校の道徳科の教科用図書、中学校の道徳科以外の教科用図書は、平成30年度と同じ発行者の教科用図書を使用します。

小学校	
種目	発行者
国語	光村図書出版
書写	光村図書出版
社会	教育出版
地 図	帝国書院
算 数	学校図書
理 科	大日本図書
生 活	東京書籍
音 楽	教育芸術社
図画工作	日本文教出版
家 庭	東京書籍
保 健	学研教育みらい
道 徳	日本文教出版

中学校			
種目	発行者	種目	発行者
国語	光村図書出版	音 楽 (一 般)	教育出版
書写	教育出版		
社会 (地 理)	帝国書院	音 楽 (器楽合奏)	教育出版
社会 (歴 史)	帝国書院	美 術	日本文教出版
社会 (公 民)	帝国書院	保健体育	学研教育みらい
		技術・家庭 (技術分野)	開隆堂出版
地 図	帝国書院	技術・家庭 (家庭分野)	開隆堂出版
数 字	東京書籍		
理 科	東京書籍	英 語	学校図書
		道 徳	日本文教出版

※小学校の道徳科の教科用図書は、平成29年度に採択しています。

平成30年度全国学力・学習状況調査結果からみる、児童・生徒の学習状況について

平成30年4月に、小学6年生と中学3年生を対象に全国学力・学習状況調査を実施しました。例年の国語と算数・数学に加えて、今年度は理科の調査も実施されました。本調査の結果から、奥多摩町の子どもたちは、義務教育を終えるまでに、基礎的・基本的な学習内容の定着、それらを活用する力の向上が概ね図られていることがみて取れています。ここでは、奥多摩町の子どもたちの正答率が低かった調査問題を取り上げます。このような問題を子どもたちは苦手としていることを踏まえて、本調査結果を、学校での指導、ご家庭での教育にお役立ていただきたいと思います。

小学校・国語 A問題 (主として知識) ☆学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題

「ノートの一部」の文章中の—部は、どのような漢字を使って書きますか。—部と同じ漢字を—部を使って書く文として最も適切なものを、次の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。 ※調査問題から一部抜粋し、表記を変更しています。

〈ノートの一部〉

地元野菜や果物などを使った新しいおかしをせ極的に開発している。

- 1：三角形の面せきを求める。 2：大会でよい成せきを残す。 3：せき任の重い仕事をする。

正答：1 面積 (ノートの一部：積極的) 〈2：成績・3：責任〉

◇奥多摩町の小学6年生の約7割が誤答となり、このうち、約3割が「3」を選択し、約2割が無回答でした。

・既習の漢字について、同じ音と同じ部分をもつ漢字を使い分けることを苦手としています。

小学校・算数 A問題 (主として知識) ☆小数の除法の意味について理解しているかを見取る問題

答えが「 $12 \div 0.8$ 」の式で求められる問題を、下の1から4までの中からすべて選んで、その番号を書きましょう。

- 1 1mの重さが12kgの鉄の棒があります。この鉄の棒0.8mの重さは何kgですか。
- 2 0.8Lで板を12㎡ぬることができるペンキがあります。このペンキ1Lでは、板を何㎡ぬることができますか。
- 3 赤いテープの長さは12mです。白いテープの長さは、赤いテープの長さの0.8倍です。白いテープの長さは何mですか。
- 4 長さが12mのリボンを0.8mずつ切っていきます。0.8mのリボンは何本できますか。

正答：2・4 〈1： 12×0.8 3： 12×0.8 〉

◇奥多摩町の小学6年生の約8割が誤答となり、約4割が「1」と「4」を選択しています。

・小数の乗法及び除法の意味の理解が不十分となっています。
・問題の場面から、式を考えることを苦手としています。

中学校・理科 ☆濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できるかをみる問題

食塩水の質量パーセント濃度が3.0%のものを、A、Bの中から1つ選びなさい。

A：水97gに、食塩3.0gを溶かしました。

B：水100gに、食塩3.0gを溶かしました。 ※調査問題から一部抜粋し、表記を変更しています。

正答：A $3.0 \div (97 + 3.0) \times 100 = 3.0 \div 100 \times 100 = 3.0$ (%)

◇奥多摩町の中学3年生の3/4が「B」を選択し、質量パーセント濃度に関する概念的理解が十分でないことが分かります。

・溶液(食塩水)の質量に対する溶質(食塩)の質量の割合(質量パーセント濃度)を表す技能に課題がみられます。

教育委員に

小峰洋治氏 再任

奥多摩町教育委員の小峰洋治氏は、10月6日で任期満了となることから、9月の定例町議会で議会の同意を得て、10月7日付で再任されました。小峰洋治氏は、平成18年10月に就任以来、今回4期目の任期(4年)となります。

教育委員会の動き

- ◎5月定例会(5月30日)
 - ・議案第16号―奥多摩町文化財保護審議会委員の委嘱について他2議案
- ◎6月定例会(6月22日)
 - ・教育長報告、教育課長報告他
- ◎7月定例会(7月20日)
 - ・議案第19号―専決処分承認を求めることについて(平成30年度児童の教育課程について(届)他1議案)
- ◎8月定例会(8月20日)
 - ・議案第21号―奥多摩町教育文化活動奨励者推薦委員の委嘱について他2議案
- ◎9月定例会(9月21日)
 - ・議案第24号―専決処分の承認を求めることについて(平成30年度児童)

児童徒の教育課程について(届)他1議案

- ◎10月定例会(10月22日)
 - ・議案第26号―奥多摩町教育文化活動奨励者の決定について

「成人の日」の式典

今回、新しく成人とされる方は、平成10年4月2日から11年4月1日までに生まれた方です。対象の方には、ハガキで12月中旬にご案内します。お気軽にお越しください。

【日時】 1月14日(月)午前10時
 【会場】 福祉会館
 【問合せ先】 教育課社会教育係

☎(83)12246



区域外就学及び指定校変更申立等について

教育委員会では、町内各小・中学校ごとに通学区域を定め、児童生徒に就学すべき学校をそれぞれ指定しておりますが、指定校以外への就学を希望する場合は教育委員会に申立等を行うことができます。

区域外就学

奥多摩町以外から奥多摩町立学校を希望する場合

指定校変更(小学校のみ)

奥多摩町教育委員会が指定した学校以外に就学を希望する場合

- 申立ができるのは主に次の理由です。
- 転居予定 ○身体的理由
- その他特別な理由により教育的配慮が必要と思われる場合等

手続き方法

印鑑ほか、事由別にそれぞれ必要な書類がありますので、事前にお問い合わせください。

教育委員会では、申請の内容を審査し変更の可否を決定しますが、学校運営上または施設状況等から判断し、ご希望に沿えない場合もあります。

【問合せ先】

教育課学務係 ☎(83)12246

就学援助費 新入学児童生徒用品費の入学前支給について

経済的な理由によってお子さんの就学費が困難なご家庭に対して学用品費、学校給食費など学校にかかる費用の一部を援助しています。「標準保護」認定を受けた場合に就学援助費のうち、入学に必要な「新入学児童生徒用品費」について、入学前の3月に支給を実施します。支援を希望される方は、左記の要件を確認のうえ必要書類を添えて申請してください。

次のすべての要件に該当する方

- ・平成31年2月1日に、町に住民登録がある方
- ・平成31年4月に、公立小・中学校の入学予定の方
- ・標準保護世帯である方(審査会で認定を受けた世帯)

【申請期間】

平成30年12月17日から平成31年1月18日まで

【申請先】

教育課学務係 ※申請書等・詳細は、町教育委員会へお問い合わせください。

【問合せ先】

教育課学務係

☎(83)12246

図書館より新しい本のご紹介

一般書

- 下町ロケット ヤタガラス 池井戸 潤 著 小学館
- エムエス 継続捜査ゼミ2 今野 敏 著 講談社
- 沈黙のパレード 東野 圭吾 著 文藝春秋
- 草原のコック・オー・ヴァン 柴田 よしき 著 文藝春秋
- 七つの試練 池袋ウエストゲートパーク14 石田 衣良 著 文藝春秋
- 吉本ばななが友達についての悩みにつたえる 吉本 ばなな 著 朝日新聞出版
- 銀河食堂の夜 さだまさし 著 幻冬舎
- 黄金の代償 福田 和代 著 KADOKAWA
- 想い人 あくじやれ瓢六 諸田 玲子 著 文藝春秋
- 花咲小路三丁目北角のすばるちゃん 小路 幸也 著 ポプラ社

児童書

- あさって町のフミオくん 昼田 弥子 作 ブロンズ新社
- ふよよどのふよこちゃん 飯野 和好 作 理論社
- ぼくらの一步 30人31脚 itou 作 アリス館
- いっしょにかえろう ハイロ・ブイトラゴ 文岩崎書店
- リスのたんじょうび トーン・テレヘン 著 偕成社
- どんぐりむらのいちねんかん なかやみわ作・絵 学研プラス
- 森のとしよかんのひみつ 小手鞠 るい 作 金の星社
- なまえをつけて 谷川 俊太郎 詩 講談社
- おいも! 石津 ちひろ 文 小峰書店
- どうぶつ どんどん たしろちさと 作・絵 大日本図書



家庭とゲームの付き合い方

奥多摩町教育相談室

スクールソーシャルワーカー 八木橋 咲月

インターネットやゲーム機の技術が発展し、ゲーム機自体の機能が増え、様々な遊び方が出来るようになりました。別々の場所からインターネット回線を利用して仲間と会話をしながら遊べる機能や、スマートフォンやタブレット端末などで、無料で楽しめるゲームアプリもあり、以前よりも多種多様なゲームが簡単に楽しめる傾向にあります。

インターネット回線を利用するゲームでは、不特定多数の人と繋がりを持つことで連携してゲームを進めたり、ゲーム内の有料アイテムの料金を払う「課金」も簡単に出来ます。実際の人間やお金が形として見えないのに、いつでも気軽に自分の都合に合わせて遊べるため、つい夢中になってしまいます。一方で、お子さんの想定と違う事態になってしまふこともあります。実際に別の地域で、ゲームの中で繋がっていた相手と会う約束をしたら年齢も性別も違った、請求額が5万円を超えてしまった、といったトラブルの相談もありました。保護者の方からは、健康面や学習面への心配や、ご家庭でのゲームへのルール作りの難しさ、

子どもの楽しみを奪ってしまうのはかわいそう、といった声も聞かれました。

ルールを決める際には、自分で管理する意識を持たせることが大切です。「宿題が終わってから夕飯の間だけ」「午後8時以降ゲームは無し」など、具体的な時間帯を含んだ約束をお子さんと一緒に考える方法もあります。大人が一方的に使い方を決めるのではなく、利用する側のお子さんが自分でも出来るようなルールを考えます。もしも守れなかった時のペナルティ等も一緒に考えてもいいと思います。そうすることで自分が決めたことを守る意識にも繋がります。

お子さんが約束を守らないと、つい怒ってしまいがちですが、ただ「長い時間やり過ぎてはいけない」だけでは、「こんなに楽しいのにどうしてもとやめてはいけないのか分からない」というお子さんもいます。お子さんがゲームに夢中になる気持ちへの理解を伝えつつ、保護者の方にとってゲームのやり過ぎはどう心配なのかをお子さんへ丁寧に伝えます。また、ゲーム以外の遊びや、別の時間の過ごし方を提案し、ちよつとした時間でも一緒に過ごすことで家族と過ごす時間になります。

お子さんにとって、気分転換やストレス発散の良い手段となるよう、ご家庭で工夫しながらゲームと付き合い合っていけるといいと思います。

郷土奥多摩(文化財)

金鳳山普門寺、楼門及び

木造十一面観音座像

文化財保護審議会委員 福島 喜彦

今回の郷土奥多摩の紹介は町指定文化財、金鳳山普門寺楼門及び十一面観音座像・徳治元年丙午作(1306年)です。平成29年6月にご紹介した白丸の杣入観音堂十一面観音立像・徳治2年作(1307年)とほぼ同年代の作であることが解り関心を持ちました。

普門寺は留浦地区、小河内ダム中流左岸注ぐ峰谷川沿いに1kmほど入った雲風呂(河内字坂本)という所にあり、凜とした中、石段を登った山腹にあります。因みに雲風呂は、付近に温泉鉱泉が湧出したのでこの地名がついたという説があります。

町誌によりますと普門寺は臨済宗建長寺末で山号は金鳳山。物外可什和尚(鎌倉建長寺第三十七世)を開山として室町時代初期(南北朝時代の貞和年間(1345年~1349年)に創建と伝えられ、町内で最も歴史のある寺院と言われ本尊に十一面観音座像を祀っています。尚、貞和年間は、約670年前、南北朝時代で室町時代初代将軍足利尊氏の時代です。尊氏は、諸国に寺院を多数建造したと言われています。また、物外可什和尚は、立川市にある名利普濟

寺を開山したことで知られていません。

普門寺は、もとは峰谷川と多摩川の合流点際の河内集落にありましたが、昭和32年(1957年)の小河内ダムの建設で今の場所(河内字坂本)に移転しました。本堂は近年の再建ですが、64段の石段を上がつて正面に立つ楼門は、二層の楼門建築で寛政2年(1790年)に建立され旧地からそのまま移築されたもので湖底に沈んだ村の現存する唯一の寺院建築です。また、町内で楼門をもつ寺院は普門寺だけです。桁行5.45m、梁間3.64m柱脚長く廻縁があり、屋根は入母屋造の瓦葺きで、その様式は寺院風の大工技術が必要限度に押さえられて地方の民家建築の



本堂

楼門から石段を25段上がった所に本堂があり、その本堂の木造厨子内に十一面観音座像が本尊として祀られています。十一面観音座像の材質はさわら材で、総高43cm、像高18.5cm、光背26cm、台座17.5cmです。台座裏に墨書で「徳治元年丙午□□」とあり制作年と思われれます。徳治元年は、西暦1306年、今から712年前で鎌倉時代末期になります。宋朝風の様式で裾が蓮台から垂れ切金模様を描いています。形容整った作で、十一面観音の特徴である頭上中央に化仏(小型の如来像)を戴き、十一の面(顔)であらゆる方向を見て人々の悩みや苦しみを救い、すべ



楼門

手法が応用され地方建築の簡素美を表していると言われています。さらに楼門は、12本の樗柱が支える十二脚重層の山門で、楼上には梵鐘があり、以前は除夜の鐘などで使われていたそうです。楼門を支える12本の樗柱が、長い年月風雪に耐え、湖底の村の歴史を伝えているかのようです。

ての願いを叶えると言われています。さらに台座は、蓮の花びらの形に作られた蓮華座です。仏像の背後にあるのが、舟形光背といい舟のような形をしています。実際は蓮の花びらを表し仏様の威光を示しています。

さて、白丸の杣入観音堂十一面観音立像は、徳治2年で1年の違いですが、大きさや立像と座像の違いだけでなく大分趣きが違うように感じます。同年代の作という関連性は不明ですが、鎌倉時代は新しい仏教が多く生まれて所謂鎌倉仏教と言われています。現在日本にある仏教宗派の半数近くがこの時代に開かれて、仏教が生きた宗教として人々に広まった時代です。仏教だけでなくその後の日本文化にも多くの影響を与えました。そして、布教と共に各地に寺院が建てられ仏像が安置されていたと推測されます。

最後に、奥多摩で最も歴史ある寺院、普門寺が、清閑の中これからも地域の皆様の心の支柱として悠久の歴史を刻むことでしょう。



十一面観音座像